

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔生花〕 （経営者）	・記録的な猛暑のなか、生花、切り花を購入する客は少ない。2、3か月後の涼しい時期になれば、多少は良くなるが、楽観できる状態ではない。
		百貨店（営業担当）	・高額品の動きにはばらつきがあり、力強い景気の回復感を感じられない。一方で来客数は増加傾向にあり、客の購買意欲が少しずつ高まっている。
		百貨店（販売促進担当）	・猛暑が続き、夏物商材しか売れなかった。しかし少しずつ気候が良くなり、秋物商材に動きが始め、来客数や客単価が上がる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・例年の秋物商品に加え、長引く残暑によって夏物商品も売れるため、例年より売上があがる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・2、3か月先は外の気温が低くなり、コーヒーの消費量もやや増えるため、客の来店頻度は例年通りに増える。また、購入も秋口にかけて増える。
		観光旅館組合（職員）	・口蹄疫の影響も落ち着き、2～3か月後は紅葉シーズンでもあり、例年通りとはいかないまでも、少しは回復する。
		観光ホテル（総務担当）	・予約状況を見ると、10月の売上見込みが好調である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・来月以降は学会など大型宴席が多く、好調に推移する。また、宿泊部門も団体客の予約が多く、個人客も活発に動いている。
		タクシー運転手	・口蹄疫の移動制限解除により、幾分か人が動き出す。また暑さも和らぐため、外出する人が増え、タクシー利用者も増える。
		ゴルフ場（従業員）	・予約の状況を見ると、9～11月は順調に推移している。口蹄疫の影響で中止されたイベント等が動きつつある。官公庁のコンペや県外企業のコンペの予約が少しずつ入っており、来月よりは再来月、さらに年末に向かって少しずつ良い方向に向かう。
		ゴルフ場（支配人）	・来月いっぱいには厳しい残暑が残ると予想されているが、その後は例年並みの天候であるため、客入りも例年並みに回復する。
		美容室（店長）	・2、3か月先は結婚式等いろいろなイベントが多い季節であるため、少し予約が入っており、やや良くなる。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・在宅介護をより重視し、認知症対策や高齢者住居対策を今後の柱とするとのプレス発表があったため、手厚い予算措置が期待できる。	
	設計事務所（所長）	・民間の住宅着工件数は冷え切っているが、公共事業の設計や計画が目白押しではないものの、数多く出る予定がある。	
	変わらない	商店街（代表者）	・売れる商品の価格帯が、非常に低水準である。販売量は前年と同水準で推移しているが、単価が低いので売上が上がらない。客は将来に対する不安を抱えており、余分な買物を一切しなくなっている。
		商店街（代表者）	・2、3か月先はいくらか気候的に過ごしやすくなり、食欲の秋で良くなる。しかし周りに商店街やスーパーが多いため、やや厳しい。宣伝力が不足していることもあり、商店街に来てもらえるような施策を打ち出し、消費者の購買力の上昇につないでいきたい。
		商店街（代表者）	・前月、今月と客足が商店街から遠のいたため、来月はその反動でやや持ち直す。
		商店街（代表者）	・消費者に不安を与えるネガティブ報道が多く、商店街の売上も悪い状況が続く。商店街はますますシャッター通りとなっていく。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・景気の先行き不透明のため、今後も、家庭の支出が増えそうにない。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）		・涼しくなれば売上は伸びるが、販売単価が低い。日本茶は必需品ではないため、急激に伸びることがなく、今後もあまり期待できない。	
百貨店（営業担当）		・一部の商品に動きが出ており、富裕層の動きは良くなるが、ボリュームを支えている客層は、横ばい若しくはやや悪くなる。	

百貨店（営業担当）	・今月は、中元ギフトの買上単価を前年並みに確保したが、来客数や買上数量が前年割れをし、売上は前年割れとなった。届け先への商品選択を絞り込む慎重な姿勢が続いている。一方で通信販売やインターネットなど店外受注が伸長した。
百貨店（営業企画担当）	・客の購買傾向は変わっておらず、大きなトレンドや特別な行事がない限り、購買を控える傾向が続く。
百貨店（営業企画担当）	・景気の悪化は、一時的に下げ止まりの傾向であったが、急激な円高や株価の下落、景気回復策の具体的な施策等がみえない状況である。経済環境が悪化傾向にあり、客の購買意欲の変化はみられない。
百貨店（企画）	・リーマンショックの急激な落ち込みから2巡目に入り、現状より落ち込み幅が小さくなる。円高が長引けば消費者の購買意欲に影響が出るため、先行きは不透明である。
百貨店（業務担当）	・エコカー購入補助金制度が終わり、景気刺激策も落ち着きをみせている。個人消費が持ち直した感がないまま、秋冬の商戦に突入するが、財布のひもはまだまだ固い。
スーパー（店長）	・今後も円高の傾向が続くとみられ、消費者の購買意欲も含め、景気が良くなるような要因はみえない。
スーパー（店長）	・エコポイント制度の終了、たばこの増税等の影響がこれから出てくるので、ますます客の財布のひもは固くなる。
スーパー（店長）	・今年は残暑が長引くと予想されており、気温があまり下がらないため、冷房などの電気代の増加や昼食を簡単メニューにする傾向が続く。支出が増加した分だけ食品の節約はまだ続く。
スーパー（企画担当）	・現状の社会情勢は継続する見通しが強い。また天候も猛暑や残暑が予想され、青果物の不作、高騰が懸念される。今後の景気回復は難しい。
スーパー（経理担当）	・トレンドとしてデフレスパイラルとまではいかないが、消費が例年通りには戻っておらず、今後も緩やかな消費の縮小傾向が続く。
スーパー（業務担当）	・政府の経済対策の方向性が明確に示されていないため、消費者はいかにして可処分所得を有効に使うか、という努力をする傾向が強くなっている。高単価商材や耐久消費財はメリットがないと売りにくい状況である。エコポイント制度の終了も近づき、その傾向は一層強まるので、景気は変化しないかやや悪化する。
衣料品専門店（店長）	・残暑が10月まで続くと予想されており、来客数の減少傾向は変わらない。
衣料品専門店（総務担当）	・客の様子からはやや良くなるのではないかと思えるが、客観的な数字をみると、むしろ悪い数字ばかりが出ているので、相殺されて変わらない。
衣料品専門店（取締役）	・11月は涼しくなるので、衣料品は重厚な物が多く出回り、単価が上がるため、売上が上がる。しかし単価が上がれば、客は購買に慎重になる。特に景気が良くなる材料も見当たらないため、引き続き商品の内容に工夫をしていくことしかできない。
家電量販店（総務担当）	・今年中はエコポイント制度の効果が期待できる。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・エコカー購入補助金制度やエコポイント制度等一部の景気対策が9月末の期限を迎えるため、駆け込み需要は見込めるが、10月以降の販売動向が心配される。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・傾向としては良くなりそうな気配だが、まわりの環境が厳しくなりそうなので、先が読めない状況である。
その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・繁忙期の夏休みの売上が前年を下回り、深刻な状況である。今後2、3か月先の秋の行楽シーズンにおいても販売動向の向上は見込めない。
高級レストラン（支配人）	・先がみえない不安を客は持っており、一部の消費者以外はお金を使わない。
高級レストラン（専務）	・これから忘年会シーズンとなり少しは期待できるが、例年通りには動かない。年末までこの悪い状態が続く。来年、新幹線が全線開業し、当地区では大会やイベント、人の交流等が盛んになると予想されるため、それに期待する。
旅行代理店（従業員）	・円高の影響か、秋の海外旅行の予約は出足が良い。ただし、全般的には直近の予約が多くなり、様子見の感がある。
タクシー運転手	・客はとにかく日中の外出を控え、夜も繁華街には客がいらない。また夜、店を閉めているところが多い。

	タクシー運転手	・今は景気の底と言われ、何かよほどのことがない限りタクシー業界に動きはない。この3か月ぐらいでは、今とほとんど変わらない。
	通信会社（営業担当）	・口蹄疫の終息宣言が出され、これを契機に少しでも良くなることが期待される。しかし、世の中全体の景気が悪いため、しばらくは今と変わらない状況が続く。
	通信会社（業務担当）	・来月はメーカー施策などのキャンペーンがあるが、商品やサービスに目新しさがなく、販売市場は改善しない。
	テーマパーク（職員）	・10、11月はスポーツキャンプやゴルフトーナメント等があるが、一般の個人客数や団体客数が伸びる材料がなく、厳しい状況が続く。
	理容室（経営者）	・夏休みが終わり、学校が始まるので、例年通り学生の利用が少しはあるが、夏休みの間に学生の利用が一段落したので、あまり期待できない。涼しくなると来店サイクルが伸びるので、この悪い状況は変わらない。
	音楽教室	・秋に開催予定の展示会までは買い控える客が多く、変化はない。
	設計事務所（所長）	・仕事の性質上、結果に時間がかかることが多く、今、景気が悪いため、3か月先も景気が悪い。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・地方自治体や市内は、プレミアム付き商品券等の発行で景気回復を狙っているが、円高や株価の下落等の社会不安が依然たくさんあるため、まだ良くなる状況ではない。
	商店街（代表者）	・客の様子をみると、先行き不安のため、購買意欲がない。
	百貨店（売場主任）	・消費を取り巻く環境が悪化しているのに加えて、残暑が厳しく来月前半の秋物衣料の動きが良くない。
	百貨店（売場担当）	・円高の影響で輸入商品の商材の、店頭価格に対する価格メリットは、現状段階ではない。また円高の影響は製造業等に出るため、年末商戦やボーナス商戦に若干影響が出ると懸念される。また天候要因ではあるが、残暑が長引けば秋物が売れなくなることが懸念される。
	スーパー（店長）	・惣菜や寿司といったファストフード以外での低価格志向が強い。今年の暑さで飲料等の動きは良いが、これまではあまり売れなかった非ブランドの低価格商品が良く売れるようになってきている。
	スーパー（店長）	・現在、円高が急激に進んでおり、デフレ基調であるが、更に加速する可能性がある。スーパーは単価ダウンによる売上の減少を懸念している。
	スーパー（総務担当）	・残暑が厳しいと予想され、衣料品を中心に悪影響が出る。
	スーパー（総務担当）	・円高やデフレに異常気象が加わり、先行きの不透明感が一層加速している。
	コンビニ（エリア担当）	・10月にたばこが大幅な増税となり、来月単月では売上の上昇が予想されるが、増税後、売上を上げるのは、厳しい。
	コンビニ（販売促進担当）	・量販店の280、290円の弁当が非常に好評であり、コンビニの弁当の売上が落ちている。周辺の多くの中小企業のボーナスがカットされ、デフレ状況も続く見通しのなか、消費者の節約傾向はますます強まり、景気はやや下降していく。
	衣料品専門店（経営者）	・これまでは店で扱う商品が特殊であるため、景気とは関係ないという考えでいたが、やはり昨今の景気のように悪い状況が続いている。
	衣料品専門店（店員）	・今年は残暑が続く秋が短いと予想されており、秋物衣料の動きが厳しそうである。
	家電量販店（店員）	・猛暑が続く、エアコンが順調に売れている。しかし、ピークは過ぎ、季節商材がほとんど売れなくなる時期となっている。テレビの販売量は来年の地上デジタル放送の本格開始に向けて需要はあるが、単価が非常に下がっている。前年に10万円近くした商品が5万円台と非常に安くなっており、景気が上向きには厳しい状況となっている。
	家電量販店（店員）	・今月は季節要因によるところが大きく、その反動で季節商材の動きが悪くなる。また前年9月からインフルエンザ等の影響で空気清浄機やイオン発生機が爆発的に売れた状況を考えると、前年比の増加は見込まれない。景気は少し厳しい状況が続く。
	乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金制度が終わるため、売上の落ち込みは大きくなる。
乗用車販売店（販売担当）	・エコカー購入補助金制度が9月末で終わり、駆け込み需要が大幅にあるが、需要の先取りとも考えられ、10月以降の販売量はかなり落ち込む。	

	住関連専門店（経営者）	・報道では大企業や一部企業で好決算のニュースがあるが、同業者を始め、周りの底打ち感を感じられない。プレミアム付き商品券の発行が始まったが、日常生活品や食料品への支払いにまわり、耐久消費財である置き家具にまでは回ってこない。先の景気がなかなかみえない。	
	その他専門店〔書籍〕（代表）	・株価の低迷や経済対策の不足、先行きの不安等から消費が上向き楽観的な材料に乏しい。	
	高級レストラン（経営者）	・来月の状況をみると、少しずつ予約が入っている。食材も旬の物が増え、客の飲食に対する意欲も多少はわいてくる。それにつけて接待が増えれば良い。ただ、円高や株安で打撃を受ける県内企業があり、心配される。	
	観光型ホテル（スタッフ）	9、10月の宴席の問い合わせが過去に経験がないほど少ない。	
	都市型ホテル（副支配人）	・例年10、11月は旅行代理店から団体客の予約が入るが、その代理店扱いの予約数は前年比50%減の状態である。	
	タクシー運転手	・消費者の財布もひもが固く、夜の動きが非常悪い。	
	通信会社（企画担当）	・今月の販売量の増加には明確な理由がみえず、それが持続する可能性には疑義がある。	
	通信会社（総務担当）	・雇用状況が悪く、同時に個人消費が伸び悩んでいる。また、円高によって景気は更に悪くなる一方である。	
	学習塾	・保護者等からの話によれば、エコカー購入補助金制度や猛暑によるクーラー購入等を前倒して出費しており、これから財布のひもは固くなる。	
	住宅販売会社（従業員）	・景気の先行き不透明感が払しょくされない。	
	住宅販売会社（従業員）	・成約件数が少なくなっており、問い合わせ件数も減っている。土地の動きも非常に少なく、土地売買の仲介の動き自体がなくなっている。	
悪くなる	一般小売店〔青果〕（店長）	・与党の代表選や株価の暴落など先行き不安要素が多く、購買心につながるようなプラス材料が全くない。年内は厳しい状況が続く。	
	衣料品専門店（店長）	・物が売れず、人の動きも変わらないため、とにかく景気が悪くなる。	
	乗用車販売店（管理担当）	・エコカー購入補助金制度が9月で終わるため、その反動で新車販売においては前年比6～7割で推移すれば良いほうである。	
	乗用車販売店（総務担当）	・今年の9月末でエコカー購入補助金制度が終了する。需要を先食いした分、その反動で新車販売台数が激減する。	
	その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・6～8月はずっと売上が低下しており、先行きが分らない。厳しい状況が続く。	
企業 動向 関連	良くなる	-	
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・不安要素がなくなり、個人消費も9、10月の行楽シーズンに向けて期待できる。冷凍食品メーカーも、秋口は年末年始向けの加工品の生産時期に入るため、ある程度期待できる。ただ円高により輸入物が入りやすくなっており、加工メーカーでは安い原料で安い加工品を作ろうとする傾向にある。
		食料品製造業（経営者）	・気候が良くなり、通常の製造ができるようになるため、やや良くなる。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・第二四半期締めのものであるため、受注量が増える。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・今年は猛暑で商品の動きが悪かったが、秋口にはいくらか良くなる。通常の商品の一つでも客の目を引く商品を作らなければ厳しい。
		建設業（社員）	・今月発注される工事が2、3か月後は、ピークに達している。今月と来月でどれくらいの工事量が発注されるかにもよるが、良い状態が続く。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・来月を境にかなり厳しくなる。一番大きな原因は、車のエコカー購入補助金制度の終了である。駆け込み需要がある来月は良いが、その後はかなり厳しい。電化製品関連でも、猛暑が終わればエアコンの受注が終わり、次に出てくる目新しい商品がないため、全般的に秋口は厳しい状況となる。
		その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	・今月は大口受注も相次ぎ、地方にもやっと緩やかな回復が実感できるようになった。ここ2～3か月の受注推移をみてみないと一概には言えないが、今月の引合状況から推察すると、良くなる。
変わらない	食料品製造業（経営者）	・口蹄疫は終息宣言が出されたものの、人の移動が元の水準に戻るにはかなりの時間を要する。また来年3月の九州新幹線全線開業までは目立ったイベントもなく、当分景気は変わらない。食料品製造についても今の状況が続く。	

	繊維工業（営業担当）	・生産量は増えるかもしれないが、社会的にまだまだ不景気なので卸値は低いままで推移する。工賃は、厳しいままで推移する。
	家具製造業（従業員）	・急激な円高に歯止めが掛からない状況の中、国内景気への期待感も縮小しており、再び投資控えなどに向かっている。住宅建築や商業施設の投資も、今の状況下では保留や中止に向かう傾向となっている。ただ、輸入する側としては非常に良い状況であるため、イタリア等からの家具輸入は徐々に増えている。この円高を活用して輸入商品の拡販を図りたいが、景気に対する先行き不安によりなかなか売れない。
	鉄鋼業（経営者）	・九州地区における建設需要の回復を示すような兆しは全く見当たらず、内需の掘り起こしや景気回復を後押しするような現実的な政策が見受けられない。建設需要がゼロとなることは決してないものの、国内需要を糧とする企業の体力は確実に弱っており、今後、建設業界にかかわる様々な業種で与信不安が増すことは否めない。
	一般機械器具製造業（経営者）	・下振れはこれ以上考えられないが、上振れするような良い話もない。
	電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連そのものは今非常に景気が良い状態で推移しており、2、3か月先もこの状況で推移する。また、一般的に円高の影響を受けるのではないかと懸念がある。
	輸送業（総務担当）	・荷動きが良くない商品が多い。ただし、極端に悪い商品もないので横ばいが続く。
	通信業（職員）	・今年度中の情報通信工事の受注量は、今後も順調に推移する見込みである。ただし、来年度以降は補助事業がなくなるため、情報通信の官庁工事は急激に落ち込む。
	金融業（得意先担当）	・代表者の経済環境の危機意識によって、対処方法がかなり大きく異なっている。取引先を取り巻く経済環境は必ずしも好転している状況にはなく、当面、この状況が続く。取引の状況には注視する必要がある。
	金融業（営業担当）	・エコカー購入補助金制度の終了により、自動車関連の中小企業の売上の落ち込みが予想され、低迷する状況は変わらない。
	不動産業（従業員）	・商業施設の売上が横ばいに推移し、この状況が続く。
	新聞社（広告）	・九州新幹線の開業が大きなトピックスではあるが、2、3か月のスパンでは大きな動きはなく、依然厳しい状況が続く。
	経営コンサルタント	・国全体の方針が定まらないのと並行して、企業としての将来の方針が立てにくい状況が続いている。これが解決しない限り、活発な動きはない。
	経営コンサルタント（代表取締役）	・極端に悪くなるような気配はなく、今月並みの受注は確保できる。
やや悪くなる	化学工業（総務担当）	・昨今の急激な円高の影響により、輸出関連産業を含め国内経済の冷え込みが心配される。
	電気機械器具製造業（経営者）	・仕事量は若干減少する。コストを下げきれずに、単価の値下げに対応できないという厳しい局面を迎える。新しい事業展開をしているが、意思が決定しない、様子を見ようという客が多く、景気はやや悪くなる。
	建設業（従業員）	・受注競争の激化により受注金額の低下が著しく、業界全体の景気が悪くなる。また、地域も基幹産業の低迷等により全体的に景気は悪いままである。
	金融業（調査担当）	・このまま円高が続けば、金利低下による貸出金の低下効果よりも、輸出企業等の悪影響の方が大きくなるため、将来の景気をやや悪くなる。
	広告代理店（従業員）	・今月の新聞折込枚数は前年比95%と悪化している。個人消費が上向かないため、スーパー部門や不動産部門に活気が戻らない。特に、消費のパロメータである百貨店のチラシが減少している。折込効果が希薄になっており、今後受注量が増える気配がない。
	広告代理店（従業員）	・売上額はピーク時から下がり続けており、更に下がる見通しである。
悪くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・先々の設備投資の引き合いに消極的な話がみられる。受注はおろか引き合いも手薄になっている。
	金融業（営業職渉外係）	・政府や日銀の具体策は効果を発揮するに至らず、引き続き急激な円高や株安が続くため、厳しくなる。
	経営コンサルタント	・社員にはボーナスなし、退職金なしの状態で会社を維持するのがやっとである。厳しい状況が続く。

		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・国の交付金や補助金等を活用した業務を市町村が企画できないため、市町村の事業が実施できない。このまま市町村が委託事業として発注する業務が減少していくと、業務が受注できず、調査や計画、設計を行う業者の景気はますます悪化する。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		求人情報誌製作会社（編集者）	・博多駅の再開発による大量の雇用創出が見込まれており、9月あたりからそろそろ人材確保の動きが始まる。
		職業安定所（所長）	・新規求人や求人倍率が前年を継続して上回っていることから、景況感はやや良くなる。
	変わらない	職業安定所（職員）	・有効求人が増加傾向であるほかに、有効求職者数は減少の傾向にあり、事業主都合での解雇者が大きく減少している。
		人材派遣会社（社員）	・今年上期の業績次第で変わるが、今の段階では、人手を増やせるような企業は少ない。今の人員で対応を考えている企業がほとんどである。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・急激な円高や株価の下落が企業業績に影響を及ぼし、雇用情勢も先行きがみえない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数をみると前月は前年比で減少しており、改善がみえない。また製造業を中心に今後、円高の影響も考えられ、景気の状態は先行き不透明である。
		民間職業紹介機関（社員）	・派遣先の景気は一部回復しているものの、事務的要員は社内要員調整で済む程度で、新たに外部から増員しなければならぬほどではない。半導体や電気、運送等是一部、要員需要が戻っているが、従前のような勢いはまだない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・求人の出方が弱く、後ろ倒しになっている。
	やや悪くなる	学校〔大学〕（就職担当者）	・現大学4年生対象の求人は更に縮小していくことが予想される。反面、現3年生を対象とした求人の動きが出てくるが、採用数の拡大に繋がるような話は人事担当者からは聞かれない。
		人材派遣会社（社員）	・政局も不安定で景気改善対策もない。中小企業は自力で生き残るしかなく、自社も緩やかな人員整理を始める。
		人材派遣会社（社員）	・円高影響による景気後退懸念から人員の縮小、維持の方針に傾く。
新聞社〔求人広告〕（担当者）		・地元企業人事担当者と地元大学の関係者の話では、新卒の求人雇用は更に厳しくなる。こうした状況が続けば、将来の景気への影響も避けられない。	
職業安定所（職員）		・求人数は景気の回復基調に合わせて緩やかながらも改善してきている。しかし、最近の円高や、エコポイント制度等経済対策の終了を踏まえると、雇用情勢の悪化が懸念されるところもある。また、企業の先行き不安感や不透明感が払しょくできず、新規学卒求人の状況も依然として厳しい状態である。非常に不透明感が強い状況が続く。	
悪くなる	職業安定所（職員）	・円高により悪影響を受けている企業が目立ち、新規求人数の伸びが鈍化していくような状況が考えられる。	
	民間職業紹介機関（支店長）	・円高の悪影響が取引企業に即座に出始めた。商談が本社の指示で一時中断、無期延期あるいは取りやめになることが頻発している。需要回復基調が頓挫しそうな気配である。	